

息子が、小学校三年生まで、留守家庭保育にお世話になった。授業が終わってから夕方五時までを、一年生から三年生までの子どもたちと一緒に過ごし、ゲームやスポーツ、誕生会、季節の行事、ひな祭り、七夕、夏祭り、クリスマス会など、趣向を凝らしたイベントで子どもたちを見守ってくれた。仕事を持つ母親にとって、ありがたい福岡市の助

留守家庭保育

成制度だった。

昨年九月から新制度になり、料金が値上げになっ

カンザキアヤメ



寒気に澄む色

たことで、留守家庭保育の子どもたちの二割近くが、中途退会した。利用者が利用しやすい制度になるよう

望んでいたのだが…。

新市長の留守家庭保育の一部無料化の方針に、保護者たちは期待している。

子どもの問題を考えるときは、まず一番に子どもの立場になって考えてほしい。役員として、この問題にかかわったことで、いろんなことを勉強する機会があり、知ることができた。

働く母親であっても、子どもたちの未来のために、仕事以外の時間を生かして、保護者の生の声を社会に訴えていきたい。